

山口県周南市でハタネズミが採集される

金子之史

〒762-0017 香川県坂出市高屋町502-4

A Collecting Record of *Microtus montebelli* (Mammalia: Rodentia) from Shyunan City, Yamaguchi Prefecture, Japan

Yukibumi Kaneko, 502-4, Takaya-cho, Sakaide, Kagawa Prefecture, 762-0017, Japan

Abstract: *Microtus montebelli* is one of the endemic species with few collecting records in Yamaguchi Prefecture, the westernmost location in Honshu, Japan. One male specimen of *M. montebelli* was captured in 602, Ooaza Susuman, Shyunan, in August 8, 2011. The habitat is abandoned paddy fields, where grasses were dominant. Referring previous collecting reports, this species inhabits the foot of mountains connected to the central mountains in the Chugoku District. With taking into account for the habitat of this species, further collecting information is needed in Yamaguchi Prefecture.

本州の西南端に位置する山口県の小哺乳類に関する報告は少ない。山口県環境生活部自然保護課 (2002) 『レッドデータやまぐち』によれば、食虫類のジネズミ *Crocidura dsinezumi* は防府市の中心を流れる佐波川河畔の竹林と土手・その支流のアカマツ林と隣接する畑地、および徳地町の島地川ダム湖周辺のスギ植林地及び鹿野町長野山で捕獲されている。コモグラ (=アズマモグラ) *Mogera imaizumii* は、豊北町周辺と鹿野町から錦町にかけての標高600m付近から上部の山地に隔離分布するが、個体数は極めて少ないと推測されている。カワネズミ *Chimarrocale platycephala* は、錦川、佐波川、厚東川、阿武川水系の上流部での目撃情報のみである。また、ミズラモグラ *Euroscaptor mizura* の捕獲記録はない。その結果、山口県のレッドデータリストでは食虫類のジネズミとコモグラは準絶滅危惧種に、カワネズミとミズラモグラは情報不足種と、それぞれ選定されている。

一方、ネズミ類では、スミスネズミ *Eothenomys smithii* は錦町寂地山標高900mより上部での採集記録があるが、他地域での同様な調査では確認されていない。カヤネズミ *Micromys minutus* は平野部には広く点在するが標高600m以上にはあまり見られていない。また、ハタネズミ *Microtus montebelli* は犬飼・高安 (1964) 以外に今日に至るまで捕獲例がないと書かれている。その結果、山口県のレッドデータリストではネズミ類のスミスネズミとカヤネズミは準絶滅危惧種に、ハタネズミは情報不足種に、それぞれ選定されている。

この度、山口県周南市徳山動物園のご尽力により、山口県で情報不足とされているハタネズミを同定し、新しい捕獲地点を記録することができた。あわせて上記の山口県環境生活部自然保護課 (2002) 『レッドデータやまぐち』で引用されていなかった山口県内の小哺乳類採集報告を示し、さらに筆者の未発表

の採集記録から、山口県の近隣県である島根県・広島県のネズミ類の採集結果を示すことによって、山口県の野ネズミ類の知見を充実させたいと考えた。

1. 山口県周南市でハタネズミを採集

2013年6月に、周南市徳山動物園のホームページにハタネズミとおぼしきネズミが飼育されていることを知った。そこで、当動物園にこのネズミのこともし標本が保管されているのであれば、種の同定をさせていただけないかを問い合わせた。折り返しご丁寧なご返事を頂き、当動物園で飼育していた標本はその後死亡し冷凍庫で保存されており、同定のために標本送付をして下さる旨であった。2013年6月24日にその冷凍標本をお送り頂いたので、ネズミの仮剥製標本を作製し（毛皮と頭骨）、種の同定を頭骨にておこなった。

標本に関する情報は以下の通りである。採集年月日は2011年8月8日で、採集地点は周南市大字須々万奥602である（図1）。棲息場所は水田を埋め立てた雑草地である。採集者である有馬崇恭氏がこの雑草地で耕耘機を使っていたところ、目の前をネズミが走り抜

けたので追いかけて捕まえた。その後、周南市徳山動物園が飼育し2012年2月12日に死亡が確認され、冷凍保存された。

解凍後計測した標本（雄）は、頭骨口蓋部分は柵状ではなく中央部に中隔があり（金子，2008）、明らかにハタネズミと同等できた。体重33.4g、頭胴長（肛門まで）109.2mm、尾長（肛門を起点）47.3mm、後足長17.4mm、耳長10.3mmであった。上・下顎切歯は折れていた。また、下顎臼歯の歯槽部が膨大し、筋肉に皮下脂肪がべっとり付着していたのは飼育による影響と思われる。したがって毛皮標本では一部に皮膚から毛が抜けている。この標本は、筆者の標本番号はK7602であるが、周南市徳山動物園に返却し山口県立博物館で所蔵され標本番号が付与される予定である。

インターネットの国土地理院の地図上で周南市大字須々万奥602を位置づけると、北緯34.13°、東経131.86°であり、付近の大きな目印は、南西部500mに周南高原病院や老人ホーム友愛、北西部100mには片池上自治会館、東部200mには徳山北高校がある。背後の北部には標高593.4mの緑山に連なる460m程度の山地と、西部には標高462mの山地があり、全体としてみると山麓部の柵田を形成している。

2. 山口県・島根県・広島県の小哺乳類採集報告

山口県における小哺乳類（翼手類を除く）の採集記録は大変少なく、村田（1996）を除いたままでの報告を一覧表にした（表1）。あわせて筆者の島根県と広島県の山地部におけるハタネズミの採集結果（未発表）を表1に示した。なお、村田（1996）は、採集年月日や採集頭数は不明であるが、アズマモグラを玖珂郡美川町赤羽根、玖珂郡錦町常国・大田屋・小西・高木屋、佐波郡徳地町羽高・大藤、豊田郡一之俣、都濃郡鹿野町金峰・小河内、

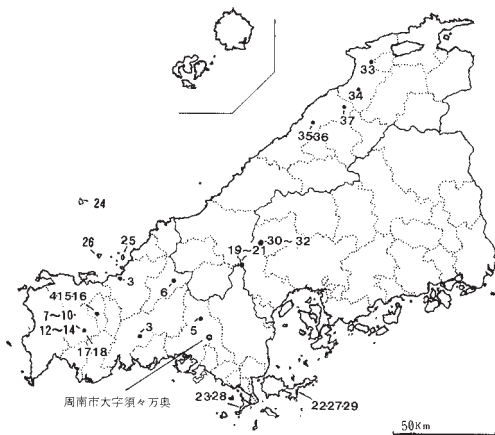


図1. 山口県における小哺乳類の既報告（村田，1996を除く）の採集地点と島根県・広島県における著者によるハタネズミの採集地点（金子，未発表）。地図上の番号は表1の番号に対応する。

表1. 山口県で捕獲された食虫類・ネズミ類の既報告(番号1~21は本州, 番号22~28は島嶼部)および島根県・広島県で捕獲されたハタネズミの採集地点(金子, 未発表: 番号29~37). 表の番号は図1の番号に対応する.

番号	文献	採集年月日	採集場所	生息場所	採集された食虫類・ネズミ類とその個体数*												
					Mw	Mo	U	C	M	E	As	Aa	Mi	m	Rn	Rr	
1	今泉(1960)	不明	豊浦郡豊北町		X	X											
2	今泉(1960)	不明	豊浦郡豊田町		X												
3	今泉(1960)	不明	萩市, 吉敷郡大内町							X							
4	庫本(1961)	不明		洞窟内							X			X	X	X	
5	大飼・高安(1964)	1964/4/6~8	都濃郡鹿野町の町役場から西北約3km	スギ造林地, リョウブ, シヤシャンボ, クスギ, シイの天然林					6	1	10	2					
6	大飼・高安(1964)	1964/4/月上旬	阿武郡阿東町	造林地						X							
7	吉田・岡藤(1973)	1973/3/27	美祿市花尾山大ヶ峠	雑木林, スギ隣, 照葉樹林			4			2	1	1					
8	吉田・岡藤(1973)	1973/3/27	美祿市花尾山立石	スギ林, スギ植林地			6			7	1						
9	吉田・岡藤(1973)	1973/3/27	美祿市谷山西畑	雑木の疎林			2			7							
10	吉田・岡藤(1973)	1973/3/27	美祿市谷山常森	休耕地, スギ植林地			1							1			
11	吉田・岡藤(1973)	1973/3/27	美祿市谷山入見台	ドリーネ内の畑地			2										
12	吉田・岡藤(1973)	1973/3/27	美祿市谷山入見	照葉樹林, スギ林							1	5					
13	吉田・岡藤(1973)	1973/3/28	美祿市桜山南原寺~野地	照葉樹林, 雑木林, 水田			5			3	2						
14	吉田・岡藤(1973)	1973/3/28	美祿市桜山大迫の堤	スギ林, スギ植林地							1						
15	吉田・岡藤(1973)**	1957/3/5	秋芳洞登山コース	雑木林			4							2			
16	吉田・岡藤(1973)***	1961/11/22	秋吉台帰り水付近	草地						1	2	2	2				
17	吉田・岡藤(1973)****	不明	美祿市洪倉								1						
18	吉田・岡藤(1973)****	不明	美祿市吉則				1									1	
19	村田(1997)	1996/5/2~6/3	寂地山稜線(1280m)	ブナ, クロモジ, オクノカンスゲ					2					8			
20	村田(1997)	1996/5/2~6/3	寂地山稜線(1290m)	アシウスギ, ミズナラ, ヤマソテツ					1		1			3			
21	村田(1997)	1996/5/2~6/3	寂地山山腹(910m)	スギ植林, ブナ, チマキザサ							1			5			
22	Imaizumi(1962)	不明	屋代島											X			
23	Imaizumi(1962)	不明	長島											X			
24	宮尾ほか(1981)	1980/5/29~31, 11/27~29	見島				X	X								X	
25	宮尾ほか(1981)	1980/5/31~6/1, 11/30~12/1	大島											X			
26	宮尾ほか(1981)	1980/11/30~	相島					X								X	
27	高田ほか(2012)	2012/2/13~17	屋代島											X			
28	高田ほか(2012)	2012/2/15~18	長島											X			
29	金子(未発表)	1992/5/15	屋代島片山				1							4			
30	金子(未発表)	1970/8/12~14	広島県戸河内町二軒小屋	造林地			14	2	5			5	4				
31	金子(未発表)	1970/8/14	広島県戸河内町二軒小屋	水田							1						
32	金子(未発表)	1970/8/14~15	広島県戸河内町二軒小屋	雑木林			1						3				
33	金子(未発表)	1971/7/27~28	島根県出雲市武志	斐伊川堤防						3			4				
34	金子(未発表)	1975/5/29~31	島根県簸川郡佐田町毛津・反辺	造林地			3		19			23	1				
35	金子(未発表)	1981/5/23	島根県大田市大森町宮ノ前	河川敷			2	1	3			2					
36	金子(未発表)	1981/5/25	島根県大田市羅漢町	河川敷			1					7					
37	金子(未発表)	1981/5/26	島根県大田市三瓶町片腕の松	草地			1			1							

*: 小哺乳類の出現(X), Mw:コウベモグラ, Mo:アズマモグラ, U:ヒミズ, C:ジネズミ, M:ハタネズミ, E:スミスネズミ, As:アカネズミ, Aa:ヒメネズミ, Mi:カヤネズミ, m:ハツカネズミ, Rn:ドブネズミ, Rr:クマネズミ. 以下は吉田・岡藤(1973)による:**:内田・浜島(未発表);***:白石・庫本(未発表);****:大嶺高校標本.

および徳山市藤谷で採集している。また、コウベモグラを玖珂郡由宇町小横、玖珂郡和木町瀬田、玖珂郡美和町片山、玖珂郡錦町渋谷・坂平・宇佐郷、玖珂郡本郷村松尾谷、佐波郡徳地町祖父・川上布尻、吉敷郡阿知須町阿知須、豊浦郡豊浦町一之瀬、厚狭郡山陽町古開作、都濃郡鹿野町下赤山、熊毛郡熊毛町須野河内、阿武郡川上村惣良台、美祿郡美東町保ヶ原、美祿郡秋芳町嘉万、防府市下右田勝坂・久兼半明・奥畑打道・大崎・富海、岩国市瓦谷、宇部市善和、小野田市有帆、下関市安岡、および山口市二堂で採集している。

表1では除かれているが、山口県内の小哺乳類の採集記録に関する他の文献としては、筆者の知る限りでは宇部市(2004)『宇部市自然環境調査報告書(宇部地域)』がある。調査期間は1999年3月～2003年3月までの4ヵ年である。宇部市北部(平原岳395.1mを中心とする6地点と、小野湖上流大田川右岸の1地点:河川・水田・山林)と宇部市中部(吉見～木田～小須野～榛原～如意寺～藤河内～楡小野:河川・水田・山林)で調査がおこなわれた。確認方法は坑道ではトンネル・塚から推定、写真撮影による記録、目視観察による種の確認、糞の形状と内容物から推定、生活痕巣穴やトレース後から推定、トラップや網により捕獲、および巣穴の形状から推定、である。パンチュートラップは食虫類(モグラ・ヒミズ等)とネズミ類について用い、餌は生ピーナッツとサラミソーセージである。その結果、ジネズミは東部で写真撮影、ヒミズは西部・北部・中部で坑道、東部で写真撮影、アズマモグラは西部・北部で坑道、アカネズミは西部で写真撮影、北部で捕獲、中部・東部で巣を発見し、ヒメネズミは中部で生活痕を発見したと記録されている。しかし、上述したように調査地点においては北部と中部の説明しかなく、またそれぞれの種と同定できる写真上の識別点、巣や生活痕に関する具体的な説明はない。

また、宇部市(2009)『宇部市自然環境調査報告書(楠地域)』では、調査期間は2006年3月～2008年3月までの2ヵ年である。モグラ科の生息確認は坑道の直径とモールマウンツの形状から推定と書かれているが、識別特徴は具体的には述べられていない。コウベモグラは荒滝山で確認、ヒミズとコウベモグラが楠地域で記録されている。アカネズミとヒメネズミを自動撮影装置写真判定でそれぞれ同定しているが、これも識別法は明示されていない。カヤネズミは巣の写真で判定されている。

さらに、国土交通省河川局河川環境課(2008)が佐波川の3調査地でアカネズミとカヤネズミを確認したと記録されている。しかし、3地点の明確な場所は不明である。

表1における小哺乳類の採集報告のうち、採集地点の位置をネズミ類についてのみ地図に示した(図1)。採集年のほとんどが1960年代～1980年代の期間であり、現在からみれば30～50年前の記録ではあるが、表1と図1の結果から以下のようなことが分かるだろう。

山口県環境生活部自然保護課(2002)の概説では、ハタネズミは「犬飼・高安(1964)以外に今日に至るまで捕獲例がなく」と情報不足の種とされていた。しかし、ハタネズミは秋吉台の草地で採集されていた(吉田・岡藤, 1973)。また、今回の周南市の採集記録も過去の犬飼・高安(1964)が採集した都濃郡(現周南市)鹿野町や阿武郡阿東町に近接していた。図1より、ハタネズミの分布は島根県や広島県との脊梁山地の山麓部で連続していると思われる。したがって、山口県ではまだ調査が行き届いていない種であるといえよう。ハタネズミは分布の偏在性が高く、大発生やその後の密度の低下などといった個体数の年変動が大きい種である(金子, 1975)。分布調査にはハタネズミが好む棲息場所を選んでワナを設置して調査する必要があるだろう。

一方、山口県で準絶滅危惧種とされるスミスネズミについては、上述した山口県環境生活部自然保護課（2002）がまとめた過去の分布では、「錦町寂地山標高900mより上部での採集記録があるが、他地域での同様な調査では確認されず」と書かれていた。「錦町寂地山標高900mより上部」は村田（1997）に基づくとと思われる。しかし、他に都濃郡（現周南市）鹿野町、萩市、豊敷郡（現山口市）大内町、および美祢市などで採集された文献（表1）を見まわっており十分な評価がされているとはいえない。ハタネズミと同様にスミスネズミも山口県内の調査が行き届いていない種であると考えられる。吉田・岡藤（1973）はスミスネズミを美祢市で比較的多数捕獲しているがいずれも3月である。金子（1989）は香川県西部の山麓部で年間にわたって調査した結果、スミスネズミは冬季から初春期捕にかけて獲个体数が増加し、この時期は繁殖期でもあるので行動性が增大すると考えられる。したがって、スミスネズミの分布調査には、この時期を選ぶ必要がある。また、スミスネズミの生息場所としては石垣での捕獲率が高いので（金子，2013），採集にあったっては棲息場所をよく選んでワナを設置しないと分布の有無を確かめることが出来ない。

摘 要

山口県周南市大字須々万奥602の水田を埋め立てた雑草地で雄1頭のハタネズミが2011年8月8日に捕獲された。この種は山口県のレッドデータで情報不足とされている。あわせて山口県のレッドデータで準絶滅危惧種とされるスミスネズミの過去の分布記録や、近隣県である島根県・広島県における筆者のハタネズミの採集結果（未発表）を示すことによって、山口県の野ネズミ類の知見を充実させた。

謝 辞

標本を送って頂いた山口県周南市徳山動物園の標本担当の転裕美さま、山口県の小哺乳類の文献をご送付頂いた多々良学園高校の村田満さま、また本論文を校閲頂いた香川大学教育学部の松本一範と篠原渉の両博士に深く謝意を表す。

引用文献

- 犬飼哲夫・高安知彦. 1964. 山口県下のノネズミ被害. 森林防疫ニュース13: 169-171.
- 今泉吉典. 1960. 原色日本哺乳類図鑑. 保育社, 大阪.
- Imaizumi, Y. 1962. On the species formation of the *Apodemus speciosus* group, with special reference to the importance of relative value in classification. Part I. Bull. National Science Museum (Tokyo), 49: 163-259.
- 金子之史. 1975. 日本の哺乳類 (12) げっ歯目ハタネズミ属. 哺乳類科学 (30): 3-26.
- 金子之史. 1989. 香川県低山録におけるスミスネズミの個体数と繁殖活動の季節変化. 香川生物15/16: 67-74.
- 金子之史. 2008. 日本産ネズミ科検索表. 阿部永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明: 日本の哺乳類 (改訂2版). 東海大学出版会, 秦野.
- 金子之史. 2013. 四国低標高における野ネズミ3種の18棲息場所における捕獲率の比較. 香川生物40: 9-15.
- 国土交通省河川局河川環境課. 2008. 河川水辺の国勢調査: 1・2・3巡目調査結果総括検討〔河川版〕(生物調査編). [http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/mizukokuweb/download/pdf/gaiyo/h17made\(torimatome\)/1_2_3honpen.pdf](http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/mizukokuweb/download/pdf/gaiyo/h17made(torimatome)/1_2_3honpen.pdf)
- 庫本 正. 1961. 秋芳洞の動物相について. 秋吉台科学博物館報告 1: 17-22.

- 宮尾嶽雄・花村 肇・酒井英一・植松 康・子安和弘・高田靖司. 1981. 山口県見島および六島諸島の哺乳動物相. 哺乳動物学雑誌 8 : 203-210.
- 村田 満. 1996. 山口県におけるコモグラ *Mogera wogura imaizumii* (Kuroda, 1957) の生息域について. 山口県の自然 56 : 6-12.
- 村田 満. 1997. ホンシュウトガリネズミ *Sorex shinto shinto* (Thomas, 1905) の山口県とその周辺域における棲息の可能性について. 山口生物 24 : 3-6.
- 高田靖司・植松 康・酒井英一・立石 隆. 2012. 瀬戸内と九州島嶼におけるネズミ類と食虫類の分布. 日本生物地理学会会報 67 : 81-92.
- 宇部自然環境調査研究会. 2004. 宇部市自然環境調査報告書 (宇部地域). 哺乳類・爬虫類・両生類 : 55-71.
http://www.city.ube.yamaguchi.jp/machizukuri/kankyohozen/kankyokyou-useitoshi/documents/natural_environment_report_ono-lake-surrounding-region.pdf
- 宇部自然環境調査研究会. 2009. 宇部市自然環境調査報告書 (楠地域). 哺乳類・爬虫類・両生類 : 161-185.
<http://www.city.ube.yamaguchi.jp/machizukuri/kankyohozen/chousasokutei/documents/chap07.pdf>
- 山口県環境生活部自然保護課. 2002. レッドデータやまぐち. 山口県, 山口.
<http://eco.pref.yamaguchi.jp/rdb/html/bunrui/01.html>
- 吉田博一・岡藤五郎. 1973. 山口県美祢市の小哺乳類. 山口県の自然 3 (9) : 14-16.